

Webデザイン実習4B

2019/11/19

Kazuma Sekiguchi

class@cieds.jp

課題

- スマートフォンに最適化したウェブサイトの構築
 - RWDにする必要は無い（してももちろんOK）
- レストランの紹介および予約サイト
 - 名前や場所などは適当に
 - 画像は商用利用可のもの、または自分で撮影、作成したもののみ許可
 - キャラクターは自分で作成したもの以外使用禁止
- トップページ、紹介部分、予約ページが必要
- 効果的にインタラクションを用いること

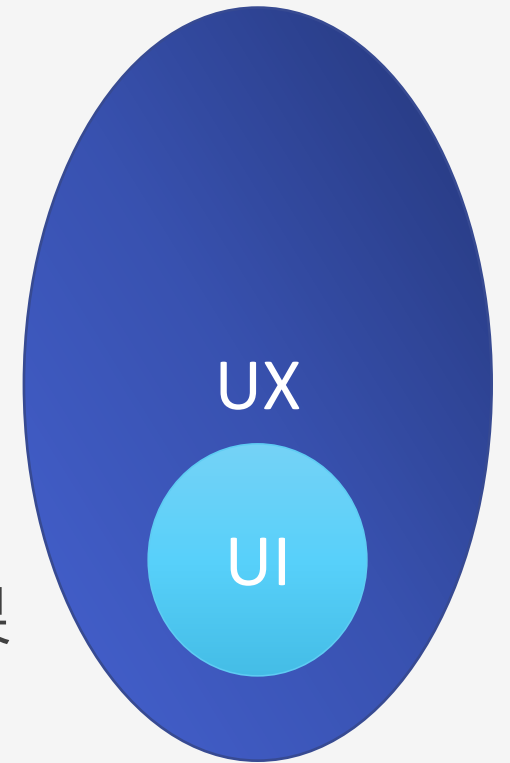
課題

- 幅414px 高さ896pxのiPhone11をターゲット
 - Chromeのモバイルモードで表示可能であること
 - 確認はChrome78のモバイルモードで確認します
- jQueryはバージョン3以上のみ使用許可
 - 動かないプラグインが多数出てくるので、注意すること
- 動画の利用はもちろん可
- 各ページにリンクを張ること
 - 1ページサイトもOK。ただし、ページ内リンクは用意すること
- 12月10日の授業時に提出

<UI&UX>

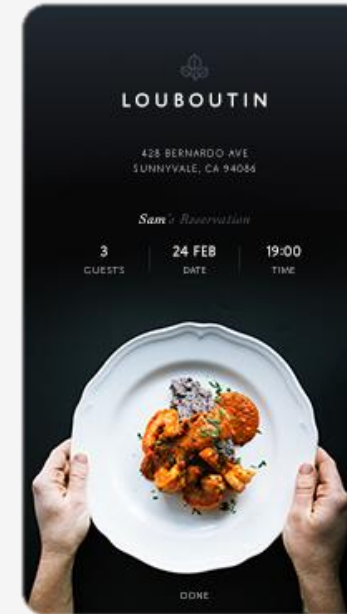
UIとUX

- 本来は全然別の概念
- UXはUIという概念を包含する
- UXの方が意味としては非常に広い
- リアルなサービス部分もUXに含まれる
- UIは使うための機能で、UXはユーザーが得られる結果
 - サービスデザイン
- 実際UI/UXという言い方はかなりの曲解が存在
 - ある種のバズワード
 - もともとUXというのを言い出した人たちがUI系の人だった



UIとUX 例

- レストランを探してウェブサイトを見る
- 雰囲気良さそうだし、料理内容なども写真で見ることができる。コースもある程度カスタマイズできるので、苦手なものを避けることができ、オンライン上で予約ができる
- 前に予約したことがあったので、ログインしたら前はこの内容でしたので、この料理はどうでしょう？と提案がある
- 予約完了後、メールで予約内容が来る、Googleカレンダーにそのまま登録できる、予約内容を一緒に行く人にシェアすることができる
- スマートフォンでは地図が見やすく表示され、電話をすぐに掛けることができるようになっている。訪問後には、お礼のサンクスメールが届く



<https://dribbble.com/shots/2546545-Day054-Confirm-Reservation>

UIとUX

- このときのUI
 - 見た目
 - 予約するときのログインがしやすい
 - コースの選択がしやすい
 - インタラクション
- 言うなれば、画面画面としての点（不連続）

UIとUX

- このときのUX
 - 全体を通して、サービス（体験）が良くできていて、歓迎されている感じを顧客に与えることができる
- UXはフロー（面）（連続）
 - 画面画面の雰囲気良かったり、よく作り込まれたりしているのは、もちろん大事
 - 全体を通して使い勝手が良いか、洗練されているかなどを考え提供する

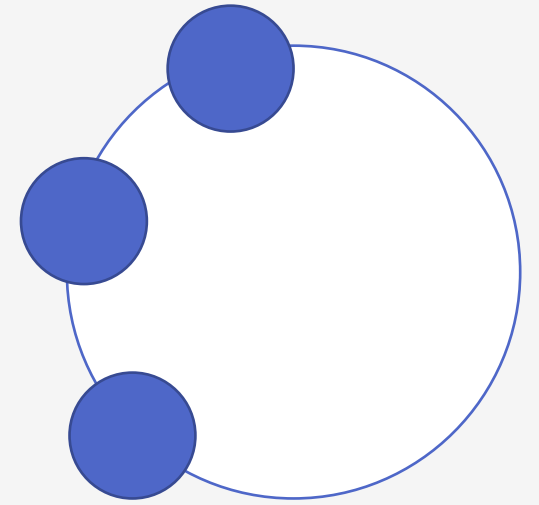
なのでUX

- UXは幅広い知識が必要
 - マーケティング知識
 - コミュニケーション能力
 - リサーチ能力
 - デザイン、よりもプロトタイプ能力
 - 経営的な視点
- デザイナーの能力にかなり + α の知識が求められる

</UI&UX>

円周上への配置

- 要素を円周上に配置する場合は、sinとcosを使う
 - X軸の位置は Math.cos (ラジアン)で算出可能
 - Y軸の位置は Math.sin (ラジアン)で算出可能
- ラジアンとして角度を指定すればOK
 - $\text{ラジアン} = \text{角度} * \text{Math.PI} / 180$
 - 半径の値をさらにかけ算して上げれば位置が算出可能



タッチ移動（スワイプ）

- touchstartイベントとtouchendイベントを利用

- touchstartイベントでタッチした場所を取得
- touchendイベントで指を離れた場所を取得

差を取得して右から左へのスワイプか左から右へのスワイプかを判定する

- 通常指の動きとコンテンツの動きが逆になる点に注意

```
elem.addEventListener("touchstart",(event)=>{  
  let startpoint = event.changedTouches[0];  
  x = startpoint.pageX;  
});
```

xに位置を取得して格納

```
elem.addEventListener("touchend",(event)=>{  
  let endpoint = event.changedTouches[0];  
  endx = endpoint.pageX;
```

endxに位置を取得して格納

スマートフォンで良くあるドロワー

- タップするとアイコンが変化して横からメニューが出てくる
 - アイコンをCSSで作成しておく
 - CSSで作成しておくことで、transitionによるアニメーションが可能になる
 - JSでクラスを付与する、外すとtransitionが発生する→アニメーションが動作する
 - メニューをwidthにアニメーションを付けるようにして展開させる
 - メインコンテンツ部分をtranslateX()を利用して横にスライドさせる
 - mainタグなどをスライドさせれば、全体をスライドさせることができる
- JSとCSSを上手く組み合わせるのがコツ
- viewportでinitial-scale=1を設定しておく
 - スライドしたときに全体が縮小されて表示されるのを防ぐ

スマートフォンで良くあるドロワー

